

中世宇都宮氏と蒙古襲来への出陣

栃木県立博物館 主任研究員 山本享史



宇都宮貞綱が
造立した鉄塔婆
(宇都宮市大通り・清厳寺)

このように、二度にわたる元軍による日本襲来を蒙古襲来もしくは元寇という。この戦いでしばしばイメージされるのは、肥後国（熊本県）の御家人竹崎季長が元軍による「て

つはう」が炸裂するなかで奮闘する「蒙古襲来絵巻」の有名な場面であるが、実は宇都宮氏の武将がこの戦いに関係していたことはほとんど知られていない。

宇都宮氏の8代貞綱は、弘安の役の際に京都六波羅の派遣軍の大將に任じられ、中国地域の武士6万人を率いて九州に出陣したと伝えられている（『下野国誌』所収「宇都宮系図」ほか）。実際には貞綱が到着する前に元軍が撤退したため戦闘には参加しなかったという。

13世紀後半、モンゴル帝国のクビライは、中国大陸の支配に強い意欲を示して都をカラコルムから大都（現在の北京）に移し、国号を中華の伝統にならつて元と定めた。その後、朝鮮の高麗を全面的に服属させ、日本に対してたびたび朝貢を強要してきた。鎌倉幕府の執権北条時宗はこれを断固として拒否し、九州に所領を持つ御家人に厳重な防衛を命じた。

文永11（1274）年、元・高麗連合軍3万人の大軍勢が対馬・壱岐を攻め、博多湾から上陸した。元軍の集団戦法や「てつはう」と呼ばれた火器の前に、一騎討ち戦法を主とする日本軍は苦戦したが、元軍も損害が大きく内部の対立などもあり撤退した（文永の役）。その後、中国南部の南宋を滅ぼした元は、弘安4（1281）年に再び14万人の大軍を率いて九州北部に迫った。しかし、暴風雨がおこって元軍は大損害を受け、再び敗退した（弘安の役）。

このような貞綱の抜擢には、当時父の7代景綱と母方の実家安達氏が幕府の最高政務機関である評定衆の一員という要職の地位にあったことが背景にあると想定される。

宇都宮氏ゆかりの清厳寺（浄土宗）

これまで貞綱の出陣については、上記の記録をもとにし伝承に近い形で指摘されてきた。しかし、肥前国（長崎県）の武家深堀氏に関する史料（『深堀系図証文記録』）にも、貞綱の出陣についての記録が残されているのである。深堀氏が貞綱と同じく弘安の役に参陣していることから、貞綱の出陣に関する記述の信憑性の高さがうかがえる。

これは、正和元（1312）年に貞綱が亡き母の十三回忌供養のために造立したとされる鉄塔婆（国指定重要文化財）がある。造立当初は菩提寺の東勝寺にあったが、16世紀末に廃寺となり清厳寺に移された。古代から鑄物の産地として知られる天明（佐野市）で鑄造されたもので、天明鑄物の代表作といえる。高さ約3.3m、幅約30cm、厚さ約6cm、重さが約320kgあり、表面上部には梵字と阿弥陀三尊がかたどられている。関東では板碑（石製の塔婆）が数多くみられるが、鉄製のものは関東はもとより全国でも珍しい。

このような技術水準の高さは、願主である貞綱の政治・経済力を反映したものといえ、まさに貞綱が蒙古襲来で大將を務めるほどの実力者であった証ではないだろうか。

田川を挟んだ清厳寺の北東には、貞綱を開基とする興禅寺（臨済宗）がある。貞綱の墓とされる巨大な五輪塔と、貞綱の勇ましい武者姿をうつす銅像を見ることが出来る。ぜひ合わせて足を運んでいただきたい。



宇都宮貞綱像
(宇都宮市今泉・興禅寺)

あなたの本づくりをお手伝いします。

一冊のぬくもりを大切にしたい。

これが私たちの編集コンセプトです。

図書出版・企画・編集・制作

37th
SINCE 1985

随想舎

<http://www.zuisousha.co.jp>

〒320-0033 栃木県宇都宮市本町10-3 TSビル

まずは
お電話を

028-616-6605

総務・営業部 1F TEL.028-616-6605 FAX.028-616-6607 編集・制作部 2F TEL.028-616-6606 FAX.028-616-6608 e-mail: info@zuisousha.co.jp